



# 渡辺だいすけ 奔走記

県政報告

創刊号

2019年9月

— 発行者 —

福井県議会議員

渡辺大輔

福井市新田塚1-70-31

TEL.0776-50-2083

ごあいさつ

新人1年目の渡辺大輔です。

私の事務所の横を地元の小学生たちが、楽しそうに下校していきます。

この子たちは平成の時代に生まれ、そして令和の時代を生きていきます。

この令和の時代を、私たちは誰もが安全に、そして安心して快適に暮らしていける社会に作り上げ、子どもたちにバトンを渡していかなければならないと思っています。

そのためには、現在の福井県が抱えている様々な問題を、皆さんの声を聴きながら、少しずつ粘り強く改善していくつもりです。これからも、どうぞよろしくお願ひします。



## 今、こんなことに取り組んでいます!

議会答弁

活動報告

### 「教育問題」

質問

**1** 福井県の今までの教育行政をどう総括？  
また今後5年間の教育の中で「先生が子どもと向き合う時間」を確保するための具体策は？

**A** 【東村教育長】

県独自の少人数教育や教員の頑張りにより、高い学力・体力につながっており、これまでの教育の進捗は概ね順調。一方地元の企業や産業の魅力を子どもたちに十分伝えられていない、教員の働き方改革をもっと進めるべきとの課題もあった。

先生が子どもと向き合う時間の確保については、部活の休養日やスクールカウンセラーなどの外部人材の活用など、業務改善や働き方改革を進めているところ。他県の先行する優良事例があれば、新たな施策として取り組む。

質問

**2** 産休、育休、病休の替わりの先生を遅滞なく配置できるよう、講師をどのように確保していくのか？

**A** 【東村教育長】

産・育休の代替者については、民間の雇用状況改善などにより、年度途中の場合、すぐに配置できないことがある。特に中学校の技能教科、養護教諭、事務職員、栄養教諭等の少数職種は代替者確保は難しい。

代替者の確保については、地域の人材をよく知る市町の教委や学校と情報共有を進める。また、退職教職員の積極的活用のため、退職前、退職後数年経過した先生にも講師登録を依頼している。

質問

**3** 平成26年度から、教員採用試験の募集をそれまでの一括採用から校種別採用に切り替えた理由は？  
来年度以降の採用を一括に戻しては？  
(特に特別支援専門教諭は県立で採用、義務制には来ないことから)

**A** 【東村教育長】

より専門性の高い教員を確保するため、H26年度から校種別採用を実施。採用後早い段階で、異校種交流(小⇔中⇔高)も進めてきた。(教員としての幅を広げるため)

採用方法は、教員志望者が減少していく中、より応募しやすい試験を考え、優秀な教員を確保できる採用を検討する。

質問

**4** 教職員の勤務時間をどのように正確に把握しようとしているのか？

**A** 【東村教育長】

早朝の出勤も在校等時間としては把握。早朝の勤務は、交通混雑回避やゆとりをもって1日の準備をするなど個人的な理由もある。超過勤務にあたるかは、その内容を検討する。



6月議会で初めての一般質問。教育問題、福祉政策などの課題について、知事、各部長、教育長に対し、質問しました。

## 「教育問題」

質問  
5

指導要録の総合所見欄は、  
教員の負担軽減のため必要最小限にしては？

**A**【東村教育長】  
指導要録は教員の負担となっていることも事実。県では、負担軽減の観点から4月当初に各市町教委に、指導要録の記述の簡素化を図るよう周知した。

県立学校では「統合型校務支援システム」を導入して、所見の簡条書きなど簡素化が進んでいる。今後導入する市町教委に対しても、そのような記載でよいと指導する。

先生が生き生きと  
働けるよう！



私の  
考え

一番問題なのが、教員の長時間労働。  
子どもたちが生き生きと学ぶためには、まず先生が生き生きと充実した働き方をすることが何より大切だと考えます。そのためには、これまで県が行ってきた様々な施策について、子どもたちや先生にとって、あまり有益でないものはやめていくことも必要です。そして必要な人的配置をすること。長時間労働の解消にむけて、粘り強く取り組んでいきます！

こんなことにも  
取り組んできました！



県教組女性部大会に参加

福井市退職教職員会でご挨拶

会派で並行在来線「あいの風とやま」「IRいしかわ」を視察

会計年度任用職員制度で広島県庁職員から説明を受ける

福井貨物さんと運輸問題を学ぶ

石川県の児童養護施設を視察

全国新任議員研修会に参加

里山保全活動を体験

この他にも  
いろんな方と  
お会いしました。

## 「福祉政策」

質問  
1

外国人の介護人材確保に向けた取り組みは？  
特に介護留学生への支援体制は？

**A**【杉本知事】  
介護人材は県内で非常に厳しい状況。外国人等に頼らざるを得ない。今年の5月から県、養成校、介護事業所の三者でワーキングチームを作り協議。人材確保に向けた予算を計上。

留学生は、日本での生活費も非常に高い。現地で介護専門学校を作れば親元から通える。そこで日本や福井の文化を学んで来てくれば、安心して受け入れられる。こうしたことも含め、今後検討する。



福井県医療福祉専門学校を視察。  
多くの外国人留学生が日本の介護について、一生懸命学んでいました。

## 「県立大 新学部設置」

質問  
1

県立大で2021年度に設置予定の「次世代のリーダーを養成する新学部」とはどのような学部？

**A**【杉本知事】  
県立大は県内出身者の9割が県に残る。できるだけ多くの県内出身者に入ってもらいたいことも重要な要素。福井の産業や観光、歴史や文化、公共政策、地域経営を担うような文科系の学部を創っていきたい。

事務所を開設しました！

お困り、お悩みなどありましたら是非ご相談を！

渡辺大輔事務所

〒910-0067 福井市新田塚 1-70-31

TEL.0776-50-2083 FAX.0776-50-2086

E-mail d-wat571@outlook.jp

http://watanabe-daisuke.info/

